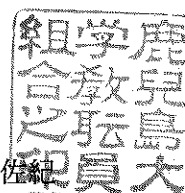


国立大学法人 鹿児島大学
学長 佐野 輝 殿

2019年7月17日

鹿児島大学教職員組合
中央執行委員長 丹羽佐紀



稲盛記念館で営業するレストランのための駐車場設置の中止を求める要望書

この度、現在建設中の稲盛記念館において来年度から営業予定のレストランの事業者からの求めに応じて、学外からのレストラン利用者等のために新たに駐車場（30 台分）をキャンパス内に整備する計画が明らかになった。駐車場法に基づく駐車場整備地区ではない本キャンパスにおいて、レストランの利用者および従業員のために多くのかけがえのない樹木を伐採（または伐根）し、土の地面を舗装化するこの計画は、以下の点において極めて重大な問題があると考えられるので、樹木の伐採（伐根）の撤回を含む駐車場の設置計画の見直しを求める。

●駐車場確保のために樹木を伐採（伐根）することは、1）キャンパスの環境悪化につながること、2）大学が地域社会に発信するメッセージとして相応しくないこと

郡元キャンパスでは、近年、舗装に伴う土の地面の消失や樹木伐採に伴う緑地の減少が著しい。これは、自然環境保全に基づく生物多様性の維持、地球温暖化の抑制、ヒートアイランド現象の緩和を目指す現代社会の取るべき方向に逆行しており、地域環境の悪化に警鐘を鳴らす立場の大学が取るべき行為ではない。地域社会での、鹿児島大学の信用とイメージダウンにつながる。加えて、この郡元キャンパスに新制鹿児島大学が設置された際に植樹された（あるいはその前からのものもあるかもしれない）樹木を伐採（伐根）することは、大学の七十年の歴史に汚点を残すことになる。

●予定されている地域での駐車場の増設によって、1）法文学部周辺を学内生活の場とする学生・教職員に対する交通事故の危険性が増加すること、2）レストラン利用者の車両が学内から出入りするときに、歩道やバス停留所を利用する市民、一般道を通行する自動車との交通事故の危険性が高く、交通渋滞の原因ともなることが危惧される。

誘致予定のレストランの要望を飲むことが優先事項になっており、学内を生活の場とする教職員の快適かつ安全な環境確保が二の次にされている。もし大学執行部が、この計画は

学内外の環境や安全に配慮して立案されていると主張するなら、駐車場の増設に関する教職員向けのアンケート調査を実施するべきであり、高麗本通りや歩道の安全の問題について県警や専門家の意見などを求め公開すべきである。

さらに、稲盛記念館にレストランを誘致することに関して、以下の質問に関する回答を求める。

●そもそも単独のレストランの駐車場に30台ものスペースを割く必要があるのか疑問である。どのような層の市民が利用することを想定しているのか、1日当たり何人程度の市民の利用を見込んでいるのかなど、大学としてマーケティングリサーチはできているのか。高麗本通りから学内に入ったり、本通りへ出たりする自動車がどのような影響をもたらすのか事前の調査を行っているのか。

誘致予定のレストランの要望のみを判断基準にしているのであれば、非常に無責任な態度だと考える。伐採した木を元に戻すことはできないこと、交通事故が起こる危険性が増すことを考えたとき、大学執行部は、鹿児島大学構成員に計画の全貌を丁寧に説明する義務を負っていると考える。

●レストランの誘致は、稲盛氏の描く稲盛記念館の運営コンセプトの一環だと考えるが、稲盛氏は、学内の樹木を伐採（伐根）してまで駐車場を確保することを承知されているのか。もし承知されているということなら、このような行為が環境問題に関するイメージダウンとなり、交通問題も引き起こしうるため、地域社会から大学が批判を受けるリスクがあることを説明したのか。これらの点について回答を求めたい。

鹿児島大学教職員組合は、記念館そのものに反対しているものではない。記念館に入るレストランにしても学内外に愛されるものであれば、われわれも大いに利用したいと思う。ただし、現在の樹木との共存、十分な安全対策が前提である。共存できる方策を大学執行部が採用し、現在の計画を見直すことを重ねて要望するものである。